

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

研修会記録

第 5 号

令和4年 11月 2日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

10月 5日 (水)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

提案 北沢 宏 先生 (間門小)

司会 藤原 佳澄 先生 (新鶴見小)

記録 山崎 聡馬 先生 (川上北小)

1 提案内容 単元名

単元名「スーパーマーケットのひみつ～消費者の願いを叶えるスーパーA～」

2 提案者より

間門小学校の近くにある、スーパーAは、精肉コーナーに力を入れており、丸鳥が販売されている。そこで、丸鳥を教材化し、本気の学習問題を「他の精肉と比べて売れ行きの低い丸鳥をなぜ置くのか」と設定した。そして、消費者の多様な願いを踏まえながら、丸鳥を置くことで売り上げを高めていることに気付けるようにした。

この実践を通し、①社会的事象の意味に迫る本時になっていたか、②資料の精選と提示のタイミングについて参観者のみなさんと考えたい。

視点①

○単元構想について

- ・「丸鳥」を教材化することで、子どもたちが取り組みやすいものになっていた。丸鳥の情報を先に児童に提示しておくことで、より取り組みやすくなるのではないかな。
- ・売り上げと仕入れ値の関係性が分かれば、「赤字なのにどうして丸鳥を売るのか。」や、「なぜ店長は、丸鳥が売れなくてもよいと思っているのか。」という疑問に繋がる。
- ・買い物調べの段階で、子どもたちの経験を掘り起こしておくことで、本時の問いに、繋がりがやすくなる。
- ・3年生なりの実感を大切にしたい。子どもたちの経験をもとに、3年生としての見方フィルターを大切に「丸鳥」を考えさせたい。

視点②

○協働的な学びに向けて

- 多くの児童が思考できるようにするため、「丸鳥の売上金額ではなく個数に着目」や、「年間の売り上げを提示」、「丸鳥と消費者のニーズとお店の思いの関係性」など様々な手立てが考えられる。資料を使うことで、子どもたちが、事実を明確に把握し、調べたり、資料を読み取ったりする活動に繋がることことができる。

<講師の先生より> 箕輪小学校 副校長 大滝 文平 先生

意味に迫る発言を子どもたちがしたときにこそ、教員からの「問い返し」がより効果を発揮する。深い学びへと繋げるきっかけとしたい。また、子どもが問題提起をしたことを価値づけることで、学び合いにつながる。このように、授業者が資料を用いて言葉かけや発問の1つ1つを工夫することで、協働的な学びが生まれていく。そのためにも見とりをもとにした授業づくりを意識し、日ごろから社会的な見方を養っていく必要がある。

文責 北沢 宏 (間門小学校)